

泌尿器科

前立腺がん検診のすすめ

日本での前立腺がんの検診(主に PSA という前立腺にのみ存在するたんぱく質を測定する血液検査です)の普及率が他の先進国と比べて高いとはいえ、発見される前立腺がんの患者さんの約 30%が主に骨へのがんの転移を伴っている状況です。前立腺がんは肺がんや胃がん・大腸がんなどと比べて進行がおそいものもありますが、大変早いものも少なくありません。また、前立腺肥大症などの前立腺の良性疾患とは異なり、**前立腺がんの患者さんは自覚できる症状がほとんどないことも多い(痛くも痒くもない!)**ため、早期発見をより難しいものにしてしています。さらに、日本での前立腺がん罹患率は増加の一途をたどっており、2020 年には 78,468 人と肺がんや大腸がんと共に頻度の高いがんになるとされています。米国では 50 歳以上の男性の約 75%は少なくとも 1 回の『PSA 検診』を受診しており、この結果前立腺がん死亡率は現在低下傾向にあります。『PSA 検診』につきましては、検査費用との兼ね合いもありますが、我々日本泌尿器科学会の専門医・指導医や米国泌尿器科学会、米国癌学会などは住民健診や人間ドック検診の際の『PSA 検診』の実施を推奨しています。あるいは、持病などでお世話になっている『かかりつけ医』の先生に『PSA 検診(検査)』をお願いしてみてもよいかもしれません。須磨区の開業医の先生方は、大変『PSA 検診』にご理解のある方が多く、他の血液検査と一緒に行ってくださる先生も多くおられます。

当泌尿器科では、『PSA 検診』での異常値の方をご紹介いただき、泌尿器科的に詳しく調べさせていただきます。前立腺がんに加えて排尿の状態、腎ぞう・膀胱の機能や異常の有無などもチェックできます。特にご両親やご兄弟に前立腺がんの方がおられる場合には、がんの罹患率が高くなりますので、50 歳を過ぎたら一度は『PSA 検診』をお勧めします。癌を早期発見して治療すれば、完全に治すことも可能です。

詳しくは当院がん相談支援室にお問い合わせください。

